

クリスマス、その響きには喜びとあたたかさがあります。それは、イエス様が私たちのためにこの世界に来てくださったという、神の奇跡がその中心にあるからです。その約束の実現は、今までも、この時も、そしてこれからも、人々の救いです。

沈黙の時間

今朝はそのクリスマス・ストーリーのプロローグ（序曲）です。それは、キリストの誕生に先立って、バプテスマのヨハネが誕生するというエピソードです。大切なプレゼントは緩衝材に包まれ、包装紙でくるまれ、さらに店の紙袋に入れてあります。大事なお祭りには、前夜祭や、そのための行事が行われることがあります。

イエス様の誕生を祝うクリスマスは、4週間のアドベント・シーズンがあります。4本のろうそくが、約束に近づくことを教えます。そして、私たちの人生も、ともしびを掲げて、約束に向かってどのように生きるべきかを沈黙のうちに語り掛けられるのです。クリスマスの恵みの、大切な側面ということができるでしょう。

バプテスマ（洗礼者）のヨハネは、ザカリアとエリサベトという年老いた司祭夫婦の子供として生まれました。注目したいのは、沈黙の時間です。非の打ちどころの無い正しい人たちであったにもかかわらず、このエピソードは重い沈黙が何層にも積み重なっています。子供が与えられない何十年間の沈黙、神殿で香が焚かれる沈黙の空間、そして、ザカリアを襲った10ヶ月間の口と耳を遮断された沈黙の体験です。キリシタン弾圧の悲惨な歴史小説に、遠藤周作は「沈黙」と題をつけました。私たちにとって、息が詰まるような苦しみとなるもの、それが沈黙です。

クリスマスの喜びは、この沈黙の先にあることを私たちは知らなければなりません。まさか、この道の向こうに希望などあるはずがないだろうと思う先に、神の約束は実現するのです。ユダヤの人々が、何百年も待ち続けた先に、主は生まれました。

神の応答

アドベント・カレンダーは、子供たちにとっては、毎日がワクワクするお楽しみですが、大人にとっては、まるで運命のカウントダウンのような恐ろしいものに見える時があります。ふと、これは人生も同じかもしれないなと思います。子供の時代は、毎日が楽しくて、明日が来ることが楽しみでいっぱいです。しかし、大人になると、いつも何かに追われて、「間に合うか」「早く終われば良いのに」と喜びや楽しみを味わうことを忘れてしまうのです。休むことが、何か悪いことであるかのように。

ザカリアの、天使からの強制的な沈黙の一年は、神様からの不思議な体験でした。しかし、その中に神様の愛がザカリアとエリサベトに向けて込められていました。彼らは、一時的に、子供の時代に引き戻されたのです。不自由な中でも、約束を待ち望む時間を取り戻しました。沈黙は、約束の実現を待ち望む、恵みの時間なのです。